

園内研修がもたらしたもの ～子どもの気持ちを受け止めながらの保育実践～

瀬藤 彩（名草幼稚園）
木下幸宙（名草幼稚園）

山本昌子（名草幼稚園）
黒川建一（名草幼稚園 研修顧問）

研究的取り組みの経緯

●研究発表をすることになり、最初は、「子どもたちの気持ちを受け止めながら保育をすること」の大切さを提唱する予定だった。それは、本園で常に心がけている、いわば保育の理念である。

その理念を、園内外の研修会を繰り返すなかで学んでいたことに気がついた。自分たちが園内外のさまざまな研修会、とりわけ園内研修で実践事例を検討するとき、いつも、いちばん主要な観点になっていることである。そういう気づきがあって、私たちは、園内研修のことを少し考えてみたいと思うようになった。

自分が保育を実践するうえで園内研修がどのように意味をもってきたのか。研究とはいえないけれど、そのことに目を向けてみるのも大切なのではないかと思った。

そこで、自分たちの保育実践に「園内研修がもたらしたもの」について考えることを、研究的な取り組みの目的とした。

●今回、研究発表をするにあたり、最初の頃は、それぞれが実践の記録を持ち寄って検討することが当然だと思っていた。通園カバンに頭を突っ込む、場所の取り合い、積み木の取り合いなど、このような事例検討を繰り返していく中で、今でも特別と考えられているブラッキーという一匹の犬をめぐる保育実践事例の話題になった。これは、本園の保育実践のあり方に一つの示唆を与えるものとなった事例である。

●園内研修の話題の中心は、やはり、自分たちの日頃の保育実践事例について紹介しあうものが多かった。ある場面で、その子が何を考えているのか、どんな気持ちでいるのか、それを推し測りながら、とりあえずは、その状態、その活動、その行為などを受容する保育者の姿勢が、ときにはビデオ記録を添えて語られる。基本になる観点は、やはり子どもの気持ちを、どう受け止めて、どう対応したか、そして、その対応は適切であったかどうかということを理念と照らし合わせて確認している。隔月に、外部の講師を招いて園内で全職員が参加する研修会のこと、そして、職員の半数ほどが参加する園外での月例研究会のことが、園内研修としての対象として考えられていた。

●しかし、研修を、保育実践のことで自分たちが学ぶ機会と考えたとき、毎朝の恒例になっている〔3分間スピーチ〕も、

そういう役割を持っているのではないかと考えるようになってから、〔園内研修〕についての私たちのイメージは、大きく広がっていった。それは、自分たちが保育観を形づくってきた経験を、より広く思い浮かべられるようになった。

●大小さまざまな事例やエピソードについて、話し合い、考え合う、日常的な活動をとおして、先述の保育理念が、それぞれの職員のなかに培われていることに気づいた。つまり、園内研修は、特定の研修会に限られていないこと、むしろ、日々の雑談にも近い話し合いの場などが、どれも研修的な機会になっていること。そのことに気づき、その意義を知ることになった。

そうした場が研修としての意味を持つかどうか、その軽重は、保育者それぞれの〔学ぼう〕とする姿勢に応じている。研修の場を持つかどうかというより、自分の研修の場にするかどうかの意識の問題であり、そうした研修の場や、研修的な姿勢で得たもの、つまり〔園内研修がもたらしたもの〕のなかで、いちばん主要なのは先述の理念である。そのことを、保育者が自覚すること、意識すること、そこにも大きな意義を見出せるだろう。

それらのことが、研究発表の準備に取り組んで話し合いながら見出してきた成果、いわば研究的な内容である。

☆私たちは保育について学びたいという気持ちから、園外研修にも積極的に参加している。園外研修で学んだこと、また、園内研修で確認しあったことが重なり合い、相互作用、相乗効果となって、「子どもの気持ちを受け止めながらの保育」が、豊かになっていくのだと思う。日々、園内の仲間と意見を交わしたり、仲間の保育をみることで視野や考えが広がるが、今回、研究発表に取り組む中で、第三者（園外の仲間や講師）から得るものも大きいと感じている。

「子どもの気持ちを受け止めながらの保育」はどうして大事なのか、分かっているつもりだったが、皆で改めて確かめ合っていかなければならないと思う。それを具体化するための確認を皆で行い、また、そのために個々の保育実践例を振り返り、保育者としての関わりや内面の読み取りが適切であったかどうか事例検討をしていきたいと思う。今後も子どもの行為だけを探るのではなく、行為の内にあるものや、保育者の関わりなど共通理解し合えるビデオ研修も続けていきたいと思う。

園内研修で学んできたことを意識すること、そして、自分がどう変わってきたのか見つめなおしていきたい。